

米について考えたこと

長岡市立北辰中学校 二年 小林 智一

僕は、毎日米を食べています。特に朝食は必ずお米です。そのお米はほとんど、僕の家でつくっていきます。

僕の家のお米作りは、家族全員で行います。作業をする時期になると、遠い所で働いている家族や親戚も駆けつけて来てくれます。僕や弟もいろいろな仕事を手伝います。春に苗を育て、ゴールデンウィーク中に田植えをし、

9月に稲刈りを行います。稲刈りまでの間は、祖父が観察をして管理をしてくれます。

僕は、米作りが良いと思うことが三つあります。

一つ目は、チームワークです。家族全員で協力して行うことによつて、家族同士の団結力が強まると思います。一人一人が自分の役割をしっかりとこなして作業がスムーズに進むと、とてもうれしいです。

二つ目は、自分達で作ったお米だから、と

てもおいしく感じられるということですが。ど
うやって作っているかを知っているから安心
できるし、みんなが苦労しただ分、おいしく感
じます。また、来年もおいしくできるように
みんなをしっかりとサポートしよう、と思うこ
とができます。

三日目は、たくさんの人に喜んでもらえる
ことです。知り合いの人やお世話になった方
にお米を贈ることでも喜んでもらえます。家

族全員が苦労して作ったお米を喜んでもらえ

るのは、僕もうれしいし、みんなもうれしい
だろうと思います。

このように、米作りをしていてうれしいこ
とはたくさんあるので、僕も精一杯協力して
いこうと思います。また、米作りを手伝うこ
とで考えることが二つあります。

まず、今までやらなかったような仕事を手
伝うということですが、僕は今まで、大人のサ
ポートぐらいの仕事しかしていませんでした。
しかし、もう中学生になったので、言われな

くても積極的にいろいろな仕事ができるようになりたいです。先日、祖父母を手伝った時に、
「誰かに言われなくても、自分で臨機応変に対応しないとだめだよ。」
と言われました。このことは今だけではなく、これから生きていく上でも大切にしなければならぬと思います。

次に、米作りを誰かが続けていかなければならぬという事です。僕の家では、祖父が六十年以上も米を作っていました。しかし誰かが継いで行かなければ、今まで作ってきた自慢の米が途絶えてしまいます。祖父達の努力を無駄にしないために、僕達のような若い世代が受け継がなければならぬと思います。また、そのために、自分にできることから手伝って覚えていこうと思いました。

最近、たくさんのお食品が廃棄されているときをニュースなどで知りました。米だけでなく、全ての食べ物を作るのに苦労している人

が、いるのに、多くの食品が廃棄されているのは悲しいことだと思いました。僕も米や野菜などが無駄にならないように、努力していきたいです。

今回、米について将来のことや、家族のことなどを考えました。小さいころから米作りを見てきたので、米は身近な存在でした。しかし、その米からもたくさんのご飯を学ぶ機会がありました。これから米作りを手伝い、将来に生かせるようなことを学んでいきたいです。また、毎日欠かさずお米を食べるようにしたいです。